

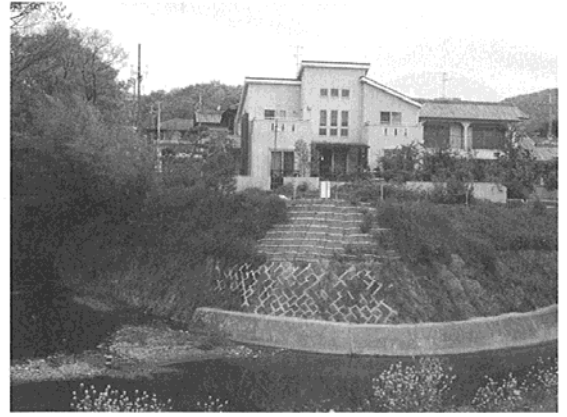
足許探検隊 (せんだんの木②)

以前(2013年4月20日号)に書いた「せんだんの木」の話の続きです。結局、昨年の台風シーズン前に護岸を守るために樹木を切り倒すことになりました。巨木がなくなりましたから、翡翠が飛ぶ姿をみるチャンスも減りました。今年の蛍がどうなるのかも気になります。

しかし、「守る会」の集まりは継続されました。地元の行政、議員の方々にも支援をいただきながら、「親水・散策公園を作る会」と名称を変え、活動を続けることになりました。そこに集まる人たちは、自然保護の活動をしている方、昔からの村の自治会の方、筆者が住む新建の自治会の方などです。多くは定年退職前後の方々となります。

メンバーが集まると地域に関する情報交換が進みます。源氏蛍と姫蛍の2種の蛍がいること。縄文時代の遺跡もあること。鎌倉時代に造られた用水があること。太平記に載る「瀬川の合戦」があったこと。大阪における初期の近郊住宅地があること。その後徐々に住宅開発が進んだこと(筆者が生まれたときの新建の家が12軒。その周りにあった畑や竹藪が住宅となり、現在では500軒前後になっている)、湧き水が地域内に14カ所もあり、村の方は「坪」と呼んでおられたこと。地域の公

中嶋哲夫の「人事も歩けば」



▲せんだんの木のない風景

共施設用の土地収容に協力をされ、その時の経緯で公民館の使用料が無料になっていること。江戸時代の村には本陣があり、天領となっていたこと。消防団が川の清掃活動を続けていること。

小さな地域ですが、実に多様な情報がそこには存在しています。日々の暮らしの後ろにある自然や歴史の知識を得ると、地域への関心が深まっていきます。話をするうちに、村の消防団がやっている川の清掃活動に、新建の住宅の自治会も参加しようではないか、という話が出てきたり、村の古老の話聞いて地域の特徴を理解しようという話が出てきたりします。とりあえず、今年は親水・散策の会で4回のワークショップを開催することになりました。自らの足許をよく知る作業から始めるわけです。その過程で、地域を深く知ることによって合意形成が進むことを期待しています。もし公園ができなくても、地域に関心が深まれば生活は楽しくもなるでしょう。「無理せず、焦らず、手を抜かず」足許を探検すれば、毎日の楽しみが増えそうです。

(MBO 実践支援センター代表)